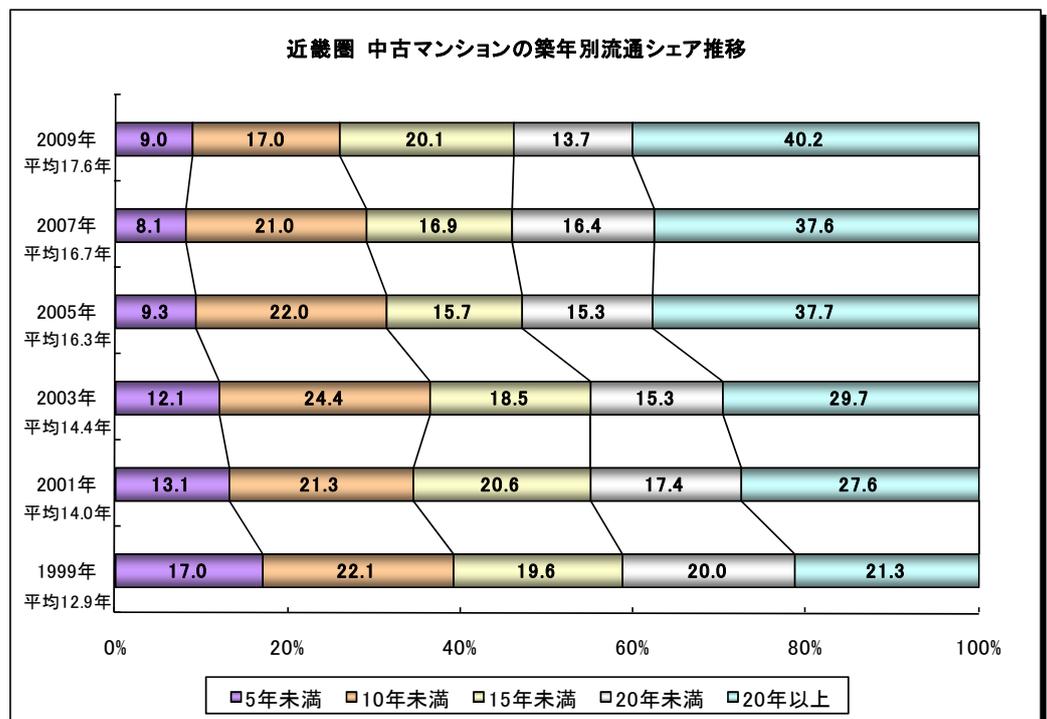
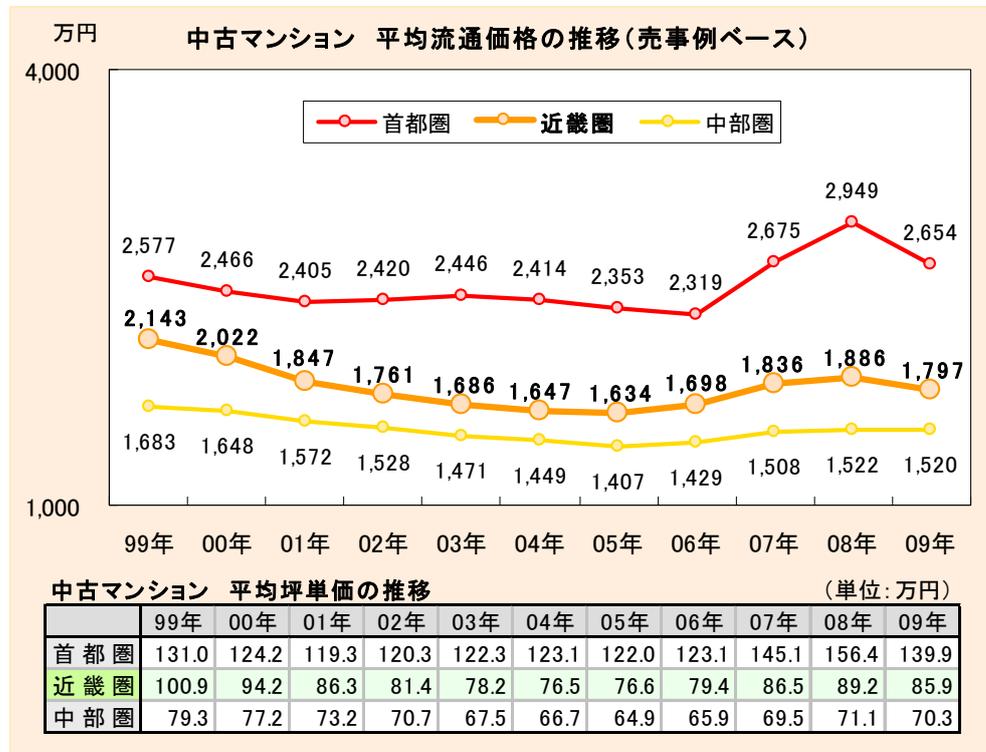


東京カンテイ「マンションデータ白書 2009【速報値版】」を発表
近畿圏の中古価格は4.7%下落の1,797万円、今後も下落する見込み
 不況の影響で割安な築浅中古物件と安価な築古物件の流通シェアが拡大傾向に

中古マンション価格は前年比**4.7%下落の1,797万円**、平均坪単価は**3.7%下落の85.9万円**とともに反転下落した。近畿圏では2007年以降の首都圏で起こったような年10%を超えるような急激な価格上昇がなかった分、2009年の下落幅も小さくなっているが、価格は依然高止まりしており、価格調整が進み中古マンション価格は**今後も下落が続くと見られる**。

築年別の中古流通シェアでは2007年までは築年が年々古くなる傾向にあったが、2009年は不況の影響で割安な物件に人気が集まり、**築20年以上の築古物件が全体のシェアの40.2%に達し**、中古流通の主流となったほか、大量供給が始まった1994年以降に供給された築10年以上15年未満のシェアが20%超に拡大した。また、新築購入希望者が割安感のある築浅物件を購入するケースが増えたため、**築5年以内の築浅物件シェアも拡大に転じている**。



発行
リリース日

株式会社 東京カンテイ
 2010年1月28日(木)
 ※本記事の無断転載を禁じます。